

令和2年度  
自治体と民間企業の協働による都市部における  
地域づくりの展開に向けた調査研究報告書  
別冊資料編2

Ⅲ自治体アンケート調査

一般財団法人 長寿社会開発センター  
国際長寿センター

## 資料編2 目次

- Ⅲ 自治体アンケート調査「市場サービス利用及びニーズ把握状況調査」記述回答まとめ…2
  - (1) 生活支援ニーズや地域課題への対応事例…2
  - (2) 地域包括支援センターが目標および手段として市場サービスを利用している事例…23
  - (3) 生活支援コーディネーターが収集した市場サービスの名称・種類とその利用方法…30
  - (4) 市場サービスを活用することで、暮らしの維持や支援を行っている事例 …35

### Ⅲ 自治体アンケート調査「市場サービス利用及びニーズ把握状況調査」 記述回答まとめ

(1) これまでに把握した生活支援ニーズとその対応事例【包括・SC 問 5①～④】

#### ① 買い物

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
買い物不便エリアに居住しているため、日々の買い物（トイレットペーパー等嵩高品／野菜、魚、肉などの生鮮品等）に不自由している。	築年数が古く高齢化が進んだ都営団地に居住する高齢者のみ／独居世帯。エレベーターがなく、上層階に居住する高齢者は特に不便である。（外出困難に起因し、買い物はもとより、ゴミ出しや通院にも不便あり）	移動販売車の誘致とともに、同時開催として健康体操を開催する。	定期的な移動販売会の開催。健康体操会や近隣児童館での交流食事を同時開催。 （※現在、交流食事は、コロナ禍により休止中）
		近隣の民生委員や地区社協の地域福祉推進員による買い物や外出の仕組みづくり。	JA のバスを借りて買い物ツアーを開催。
スーパーの入り口に行列が出来てしまうことがあり、買い物がしにくい。	足腰がそれほど丈夫ではなく、長時間同じ姿勢で立っていることが難しい。	買い物の代行、生協などの注文宅配サービスの活用、出張販売の活用。	行政だけでなく、自治会や地域の事業所など巻き込み課題を共有する場を構築。
買い物には行けるが、重いものを持ち帰れない。		買物支援の民間サービスの紹介。	-
認知機能低下があり運転をやめたため、買い物に行く手段がなくなった。また、自分で買い物に行かないので毎日の献立も考えにくくなったため、栄養摂取にも課題がある。民間スーパーの実施する宅配サービスと配食サービスを紹介。	一人暮らし高齢男性。認知機能低下が出現。自家用車の運転をやめる。	ボランティアによる支援を行ってはどうか。	スーパーの宅配サービスの利用にあたり、発注がうまくできるかどうか心配なためボランティアの支援を検討したが、結果的には事前の説明と練習により自分で注文できた。しかし、認知機能低下もあるため、今後発注内容に不自然なことがあった場合等は宅配スタッフから地域包括支援センターに情報提供してもらうよう協力を求めた。
買い物で購入した商品を家まで運ぶのが大変。	歩行能力に問題はないが、重いものを運ぶことは困難。	配達サービスのあるスーパーで購入し、家まで運んでもらう。	-

交通の便が悪く、通院・買い物などの外出の課題あり。 外出困難状態の悪化により引きこもり、最悪の場合、孤独死も発生。	リタイア後に大規模集合住宅に移住。加齢により体力が低下し、外出困難を来す場合と、公共交通機関の利用が困難かつ勾配地であり、転倒リスクが高いといった、体力的問題と環境因子が混在。	移動スーパー。 団地による大手スーパーのもの、JAによる戸建団地でのもの。	-
家事（掃除、炊事、買い物）	要支援、事業対象、特定高齢者、もしくはそれに準ずる高齢者。	買い物同行、買い物お届けサービス。	地域の商店等で買い物お届けサービスをしているところを地域資源マップなどに記載した。 一部地域に、「御用聞き」と「勝手口」の文化が根付いたところがあったが、建て替えや世帯構成、商店街の構造変化などから、徐々にこれらの機能がなくなってきた。
自分で買い物に行きたい。	居住地周辺に坂道が多く、本人は歩行が不安定なため転倒の不安あり。	移動スーパー、コミュニティ・バスの運行が実現した場合の有用性について関係者間で話し合った。	地域ケア会議で検討し、地域課題として行政に報告した。
歩行困難で買い物に行けない。	独居。歩行困難で近くにバス停があってもそこまで歩けない。運転免許を返上したため買い物に行けない。	ネットスーパー。	お米・灯油の配達ができる場所を探して支援に結び付けた。
自分で買物をしたいが、購入した物を持ち運ぶ事が難しい。 購入品は買ったその日に使いたい。	外出時は杖を使用して移動。比較的長距離の移動は可能だが、荷物を持つての移動は難しい。	購入した物を当日に自宅へ配送してくれるサービス。	普段から通っている自宅近くのスーパーへ聞き取り調査。購入金額の設定が設けられているものの、サービスとして行っているとの情報を得て、本人に伝える。
坂道や階段が多く買い物に行けない。	階段や坂が多い地域で足元が弱ってしまうと買物に出られなくなり、低栄養のリスクもあがり、悪循環になるおそれのある高齢者。	生協宅配、ネットスーパーなど市場サービスの社会資源はあるが、利用できる高齢者とできない高齢者がいる。利用できない高齢者に対して、サロンなど近所の集まりの場でできる高齢者に支援してもらい注文を手伝ってもらおう。	-

<p>大規模団地で重い物を持つ事や、電車等での買い物が困難な高齢者が増加。</p>	<p>体力低下があり、杖や歩行器を使用。階段昇降はなんとか出来るが、布団や収納ケース等の家具など重い物を持って帰ることが出来ない。</p>	<p>離れたスーパーに買い物に行く方法はないか？近所の商店街にある葬儀屋がマイクロバスを出してくれたら買い物に行けるのではないか。</p>	<p>団地での生活課題を把握するサンプル調査を 65 歳以上の 80 名に実施した。1 カ月に数回しか外出しない方が 10%いる。移動苦・階段苦・買い物苦などの悩みが多いことが分かった。</p> <p>葬儀屋がマイクロバスを運行し、4 k m 離れたスーパーへ買い物に行くツアーを実施。購入した荷物は自宅まで配送。3 か月に 1 回程度実施。</p> <p>商店街で主に宅配や出張などを行っている店舗を掲載した「買物支援マップ」を商店街の協力を得て発行した。</p>
<p>坂が多く近くにスーパーがない。買い物が不便。</p>	<p>行きはバス等を使い行けるが、買い物をした後、持ち帰るのが大変。</p>	<p>スーパーや商店、薬局などで行っている配達サービスをまとめてマップ化する。移動販売や野菜販売も掲載できると良い。</p>	<p>スーパーや商店、薬局などに趣旨説明をし、同意をもらいお買い物マップを作成。配達サービス情報を掲載し、民生委員やケアマネジャー等に配布。移動販売や野菜販売は掲載が難しく、今回は見合わせた。</p>
<p>集合住宅建て替えに伴い、衣装ケースなど必要な品物を揃えたい。</p>	<p>杖歩行。</p>	<p>-</p>	<p>区役所、社協との連携事業。送迎車を用意し買い物支援を行った。</p>
<p>居住地区に商店がない。</p>	<p>高齢化率 25%近くで、買い物に行けなくなっている方が多い。</p>	<p>地域住民を中心とした検討により、移動パン屋、移動魚屋、移動図書館の実現。</p>	<p>-</p>

② 買い物&移動

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
高齢化に伴い免許返納、車を処分したことで今まで出来ていた買い物ができなくなった。 近くには小さな八百屋しかなく、コンビニも歩いていくには距離がある。	歩く際には杖を使うなど問題なくバスの利用もできるが、荷物をさげでの移動が困難。	社会福祉法人の協力を得た移送サービス。	地区全体に課題を広げて実態を調査。 中心となるボランティア団体役員、社会福祉法人、行政、包括、生活支援コーディネーターらと複数回にわたり実施に向けた検討の場を設けた。
坂や階段が多い地域のため重いものを持って帰ることが大変であったり、お店まで遠かったりと、買い物や移動支援のニーズが多かった。 様々な施設の車両を使っての移動支援や、移動販売を実施することになった。	足腰が弱り、坂や階段を登ることが困難になり外出する機会が減少。 徐々に筋力が低下し、閉じこもりがちになりがちで人との交流もなくなっている。 宅配等がメインになり買い物をする楽しみがなくなっている。	移動支援について住民にアンケートを取ったところ、重いものを持って坂や階段を登るが大変なので帰りはタクシーなどで帰るが、行きは体のために自分で歩いているという意見が多かった。健康のための取り組みを大切にする事と、車両や運転手を提供する支援企業側の負担を減らすことから、移動支援は帰りのみ行うことになった。	実際の住民にどれぐらいのニーズがあるのか、アンケート調査や聞き取りを行うことや、同様の事例を探して、担当地区内の状況とすり合わせて、実現可能な形を検討していった。

③ 移動

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
バス停までの移動が困難。	-	住民主体の移動サービス。	住民主体の移動サービスモデルを行った。
気軽に利用できる交通手段が不十分。	身体的に外出が困難。	田畑を活用した居場所づくり。	-
公共交通機関でのスムーズな移動、負担の少ない移動。	長距離の歩行や、長距離の移動が負担で、遠方の病院に通院したいが通うのが大変。	乗り換えが少ないルートのご案内、座って行けるルートの情報提供。	-

交通の便が悪く通院・買い物などの外出の課題あり。 外出困難状態の悪化により引きこもり、最悪の場合、孤独死も起きている。	リタイア後、大規模集合住宅に移住。加齢により体力が低下し、外出困難を来す場合と、公共交通機関の活用が困難かつ勾配地であり、転倒リスクが高いといった、体力的問題と環境因子が混在。	自動車会社の支援を活用した NPO による移送支援。 地元タクシー会社の乗り合い形式による団地での移送支援。 公共交通機関のない地域でのバス会社と共同による移送支援。	アイデアとして、第二層 SC から話を聞くより、実践事例などは準備段階で話を聞くことが多い。アイデアを出し合う機会が乏しいのは課題。
区の主要施設や出張所等へ行って、手続きや催し物に参加したい。	要支援、総合事業対象、特定高齢者、もしくはそれに準ずる高齢者。	コミュニティ・バスの運行。	既存のコミュニティ・バスの経路（停留所）変更ができないか確認したが、かなりの調整が必要なため時期も含めて検討中。
買い物やちょっとした用事を足すために外出したい。	足の痛みや生活不活発による筋力の低下があり、屋外の移動に身体的にも心理的にも壁がある。	動線上に休憩するための椅子をたくさん設置。民間温浴施設等のシャトルバス等の活用。	休憩用の椅子の設置については、自治会や地域住民、福祉施設などとともに実行している。
自宅から病院への通院支援について。	膝が悪く、長時間の歩行は困難。自宅から通院しているが、自転車を使い1時間かけて通院。（こげないので、足で地面を蹴って自転車を進める）	タクシーではなく、安価で移動ができるサービス。	デイサービスの送迎車の空き席を利用した移動サービス。現在は、実験段階のため、無料で利用できる。通院だけでなく、買い物などにも利用可能。
歩行が不安定で、自宅から一人で安全に外出（買物、通院）できない。	要支援 2。両下肢浮腫が著明。歩行時のバランス不良のため、方向転換時等に後方への転倒が多い。	介護タクシー、訪問介護事業所の自費利用、家事支援代行。	自宅からの外出準備や移動介助、院内介助をパッケージ料金で対応可能な家事支援代行業者があり依頼した。利用ごとに弁当1食分のサービスがあり、課題解決に一石二鳥であった。
「支援を受けるほどではないが一人では受診が困難」という高齢者が定期受診するための移動手段がない。社協が実施している外出援助サービスや移送サービスは介護認定や障害者手帳、医師の診断書が必要。	癌の抗がん剤や放射線治療を受けている方で、免疫力が低下し公共交通機関の利用は難しいが病態が重篤でないため介護認定が出ず、家族が毎回付き添うことも難しい。	外出支援や移送サービスで対応できない高齢者の外出を地域住民が安全に安心して支援できるシステムや、診断書や介護認定がなくても移送サービスを利用できるように現状を把握してシステムの見直しを働きかけていく。	-

通院同行。	認知症で独居。子なし。親族は遠方で高齢。医療機関受診は可能である。医師との信頼が築けずドクターショッピングを繰り返す。白内障の手術時医療機関から付き添い求められる。要支援認定であり複数回に及ぶ通院同行で単位数足らず。本人も面識のない支援者は受け入れず。	古くから付き合いのある民生委員が友人として毎回通院に同行。	近隣住民との関わりと信頼関係についてアセスメント。
通院に不便・不安を感じている。	歩行状態は不安定。体力の低下もあり長距離の外出は厳しい。バスの本数も減り、一人で行くのは困難。	住民一斉アンケートの実施。住民の現在の通院状況の確認及び希望する受診科をピックアップ。	アンケート調査結果を病院へ提示し協力を依頼。団地内にポイント2か所を設け、無料で週2回1日1往復、団地から病院への無料シャトルバスの運行が始まった。
自宅から病院への通院支援について。	歩行が困難だがタクシーを利用する経済的余裕がない。	町の要所を繋ぐローカルな巡回バス。	家族・友人・近所の方の支援を相談。難しい場合、訪問診療を案内する。

#### ④ 移動&生活衛生

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
地域のサロン活動に参加したいが、自身で行くには不安がある。自宅に風呂がなく地域の銭湯もなくなってしまった。(介護保険サービス利用するまでのADL低下はない)。	介護認定未済、やや虚弱な方(歩行が不安定、声掛けが必要)	地域の高齢者関係の場所を巡回する送迎サービス。	トライアルで、銭湯への送迎サービスを地域のデイサービスの協力を得て、一定期間実施。但し、事故発生時の保険対応のリスク面の懸念があった。

#### ⑤ 生活衛生

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
自宅でお風呂に入れない、自宅で入浴する事に不安がある。	一人暮らしで、自宅の浴室が老朽化。ガスが付きにくく、マタギが高いため浴室を使用する事に不安がある。バスを利用して外出等はできる。	入浴の設備があるスポーツクラブや、市が運営している入浴施設(巡回バス等で送迎あり)を調べて紹介した。	スポーツクラブは入浴設備があるところが多く、入浴と運動が両方ででき、平日の昼間であれば比較的料金も格安であり、回数に制限がないため毎日でも通えることがわかった。



外出はできないが、美容室に行ったように綺麗になりたい。	意思疎通は問題ないがADLが低く終日ベッド上での生活状態。	ボランティアの美容師を紹介した。	有償ボランティア美容師の情報を得て、本人へ紹介し利用につながった。
ヘアカットしてもらいたいが足腰が弱り、なじみの美容院まで行かない。その美容院は訪問サービスを行うことができない。	要支援2の認定が出たが、高齢による筋力低下で転倒を繰り返しており、一人で外出することができなくなった。美容院には3か月も行っておらず、髪は伸び放題だが、付き添う親族がいない。本人は通院より訪問での散髪を希望。	区施策の訪問理美容サービスを利用する状態像ではなく、自費による訪問理美容が必要であった。訪問理美容店の情報は包括が把握していたので、情報提供することとした。	包括が把握していた理美容店はやや遠方であったことから、近隣の理美容店に訪問が可能かどうか確認したところ1件対応できるところあり。ケアマネジャーに情報提供を行った。
行きつけの美容院で髪を切りたい	歩行器がやや不安定。シルバーカーを使用しており、駅前への買物はタクシー。	美容院のスタッフが帰りにタクシーを呼び、タクシーに乗り込むまで見守る	-
		市独自の移送サービスを利用する	-

⑥ 外出

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
日常の外出支援について	勾配のある道が多いエリアに居住する独居男性。元気だが、下肢筋力の低下を感じており、買い物に出かけるのが億劫になっている。外出の頻度も落ち、意欲低下も著しい。最寄りのコンビニに行くまで2~3回休憩していた。	コロナ禍で、市内の高齢者の機能低下が顕著に出ている。外出自粛時に、自宅に閉じこもったことが要因と考えられた。今後新型コロナウイルスの流行の第2波3波がきても各自で適度な運動ができるツールや方法を伝達していく必要性があると感じられる。外の活動で、一人でも実施できるウォーキングを行うこととした。ウォーキングの際に、市が推奨しているポールウォーキングの伝達を合わせて行くと、普段の活動にも活用できる。市のスポーツ推進員とのコラボを行う事となった。	スポーツ推進員と生活支援コーディネーターで、ポールウォーキングの指導を個別、地域サロンで実施。住民とともにウォーキングマップを作成した。

<p>移動困難に伴う、外出の機会の低下。 特に不要不急の外出が減るため、楽しみや人との交流、健康維持が困難になり、ADLの低下につながっている。</p>	<p>主に要支援の方で、日常生活を送るうえで欠かせない買い物、通院、金融機関などは制度を利用したり家族にお願いをしているが、趣味や学習などを楽しむための外出は制度にないことも多く、諦めている方が多い。</p>	<p>日頃、一人で外出が困難な高齢者のために、優先順位が低くなっている非日常の余暇を楽しむための「お買い物ツアー」を企画。</p>	<p>企業や事業所の送迎車を活用した外出ツアー・移動販売の実施。</p>
		<p>外出意欲はあるが身体機能が低下している人に、「交通手段の確保、移動の補助、移動の補助、身体機能の改善」など。</p>	<p>民間企業が行う生活支援サービス事業所（便利屋）は、ケアマネジャーや地域包括支援センターにとっては、過剰な売り込みや金銭的に高額なイメージがあり、利用しづらいという声を受け、生活支援コーディネーターが主催で、ケアマネジャーと便利屋との情報交換会を開催。実際に顔を合わせて話すことで、イメージが払拭でき、利用者へ安心して紹介できる体制づくりが出来た。</p>
		<p>外出意欲はないが、身体機能はある人に、「社会的役割の創出や、人とのつながりの確保、外出目的の創出」など。</p>	<p>-</p>
		<p>外出意欲がなく身体機能も低下している人には「専門職の支援や研修、企業などと連携したつながりの確保」など。</p>	<p>-</p>
<p>地域的に交通の便が悪く、加えて坂道が多いため歩行機能の低下により、買物等の生活に直結した外出が困難。</p>	<p>-</p>	<p>コミュニティ・バス等の運用（バスの入れない狭い通りもあり）、人的（ヘルパーやボランティア等）・物理的（タクシー等の車両手配）な外出支援サービス、または費用補助。</p>	<p>ニーズ調査のため地域の介護事業所（デイサービス）の協力で買物プログラム（地域～スーパー往復送迎）を試行。</p>

<p>自治会館で定期的開催されるサロンや体操教室に参加しているが、坂道が多くバスも通っていないのでタクシーで移動している。比較的金的に余裕のある方は良いが、そうでない方は自治会町内会の催しに参加することが難しい。自治会町内会の担い手（民生委員等）は、参加できない方に対する見守りが難しくなってくる。また、参加者が固定化されており、参加できない方へのお誘いが課題となっている。</p>	<p>坂道を歩いて自治会館まで行けない。公共交通機関がない。</p>	<p>バス会社の路線変更や本数の増加、バス停の場所の見直し等、地域住民がバス会社に要望した経緯があったが実現は難しい。タクシーはドアto ドアなので安心だが安価ではなく負担感がある。定額（低額）で何人かの仲間と一緒に出掛けられたら、社会参加や仲間づくりが増えてくるので良い。</p>	<p>地域のタクシー会社は、地域に密着した持続可能な営業を考慮している。地域住民のニーズに応え、それにあったサービスを実現していくことで、顔の見える関係性や地域貢献（社会貢献）を望んでいる。企業が進んで地域と関係性を築いていくことは、導入や手段がなかなか難しい。そのような関係性の構築には地域と密着した地域ケアプラザや社会福祉協議会が連携して地域とのコーディネートの役割を發揮できる場所である。具体的な地域住民とタクシー会社と支援機関（地域ケアプラザ・社会福祉協議会）とで顔の見える関係づくりと意見交換、ニーズとサービスのマッチングをする行程を協議体として開催する予定。</p>
<p>日用品の買い物ではなく、嗜好品や楽しみのための買い物の機会が欲しい。</p>	<p>-</p>	<p>デイサービスの送迎車を借り、地域住民と共に最寄りの百貨店のある街までの「買い物ツアー」を企画した。</p>	<p>-</p>
<p>趣味活動の外出支援。</p>	<p>本人はウインドウショッピングなど個別の外出活動をしたいとの希望があるが、認知症があり外出すると自分で自宅に帰れなくなってしまうたり、ケガのリスクなどの理由で外出活動に踏み出せない。身体機能は比較的よく保たれている。日常の判断はできるが、有事の判断は難しい。介護保険上の集団活動などには抵抗感もあり利用の意向はない。</p>	<p>本人のイメージ通りとはいかないがカフェなどに付き添っていけるボランティアの活動推進。（現在は民生委員がやってくれている）</p>	<p>他保険者では視覚障害の行動援護に近いサービスを保険者のサービスとして実施している例もあり、情報の収集も行っている。社協など多職種での情報の共有、検討の実施。</p>

旅行に行きたい。	要支援、総合事業対象、特定高齢者、もしくはそれに準ずる高齢者。	地域グループの活動支援。	地域交流イベントでグループが再構築され、旅行を企画したと聞いた。区の保養所等を活用するプランなどがあった(コロナ禍で機能しなくなった)。
一定の年齢になると老人会の一泊旅行に参加できなくなる人が多くなる。	足腰が弱くなり、長距離の移動や体力に不安がある。頻尿のためトイレの問題があり、一般の旅行プランに参加する事に自信がなくなり諦めている。	旅行の行程やトイレの場所など詳細な希望を旅行会社に伝えてプランを立ててもらえないか提案したが、シニア向けの旅行会社の数が少なく、実現には至らず。	一泊旅行ではなく、日帰りなども検討し、体力に不安がある人でも参加を続けられるプログラムを検討してもらう。

⑦ 家事

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
短時間または1度で対応できる生活支援。(重い家具の移動など)	やや虚弱な方。	既存のサロン等に参加できない方を対象とした居場所の設置。	既存のサロン等に参加できない方を対象とした居場所をモデル的に設置し、実際の地域ニーズを把握した。
日常生活上の様々なこと。例えば、電球の交換ができない、換気扇の掃除ができない、衣替え、季節家電の入れ替えができないなど。	一人暮らし、80代～90代。(比較的近くに子供がいても遠慮から手伝ってと言えない。)	-	住民の助け合いにより解決。
夫が認知症になったのをきっかけに大切にしてきた畑の作り手がなくなったり、電球を交換したり、台風時に雨戸を閉めたりとそれまで夫がやってきた作業ができず困っている。	88歳。夫婦2人暮らし。円背、肩関節の可動域制限がある。認知機能は年相応。	夫が利用していたデイサービス事業所の利用者の中に畑作業を得意とし活動意欲の高い方がいることを知り、デイサービスのプログラムのひとつにこの方の畑で作業をすることを提案。 地域の方や幼稚園の子どもたちも一緒に作業しながら畑を継続できるようにしていくのはどうかとのアイデアがでた。	活動日を固定し各事業所や地域の方が参加しやすいようにした。

軽微な家事支援。	ある程度身の回りのことが出来、介護保険でのヘルパー利用の対象にならない方。	安価な家事代行サービスの紹介やボランティアの活用。	地域住民による福祉団体やボランティアセンターに相談し、ボランティアによる支援につなげた。
家事（掃除、炊事、買い物）。	身寄りがなく意思決定が難しくなっている高齢者。	地域の介護・福祉・医療・企業などのネットワークによる支援。	実現が難しい課題も多いが、個別ケア会議やエリア会議を通じて実現できるように取り組んでいきたい。
新聞等・紙ごみを5階から下におろしたい。 自宅窓を掃除してほしい。 扇風機を出して、暖房を倉庫にしましてほしい。 冷蔵庫の霜取り。 ゴミ屋敷の家財撤収作業。 定期的な掃除以外の掃除。 庭の手入れ（植木の手入れや水やり）。 書類手続きがわからない。	比較的元気だが、重いものを持って長時間移動・対応ができない。身体的には元気であるが、MCIや認知機能低下があり、突発的な手続きや家のことができない。	自費サービスの提案。 家族が来た時にやってもらう。	実際に行ってもらえる事業者に連絡見積もり等取り、利用に関しては各高齢者の判断に任せる。
調理、掃除、洗濯ができない。	上腕を骨折した高齢者。	今、出来ることを維持する（残存機能維持）ため、できないことへの補いの必要性を抽出する必要がある。アセスメント時に傾聴し、ニーズの背景を把握した上での支援が必要。	-
長時間立ってられないため、調理、掃除、洗濯、買い物ができない。 トイレが間に合わず、床を汚してしまう。	高齢化による下肢筋力低下。		-
屈んで行う掃除ができない。	腰椎圧迫骨折のある高齢者		-
デイサービスの準備が自力でできない。	年齢相応の理解力が低下した高齢者		-

草刈りをしてほしい。	高齢夫婦 2 人暮らし。基本的に自宅内での生活にはほとんど課題がないが、庭を含めた屋外での活動は転倒するリスクが高い。 子どもは遠方または頻回に来訪することはできない。	担当エリア内には、草刈りが対応可能な有償ボランティア団体が 2 つある。生活支援コーディネーターが窓口となっているため、利用者より依頼があったら、生活支援コーディネーターに相談し、各代表に依頼をしてもらっている。ボランティアで実施できるレベルでない場合には、便利屋ファイル(区域の生活支援コーディネーター連絡会にて作成)から複数選択し、見積もりを依頼している。	-
------------	---	--	---

⑧ 栄養

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
本人の病状にあった食事を探す。	口腔がんの術後、放射線治療の副作用により口腔内に違和感があり、食事摂取量が急激に低下していた。妻が嗜好品を提供したり、様々な料理を作るもなかなか口に合わず、家族も悩んでいた。	配食サービスの提案。 電話での介護食の注文。 栄養士の訪問。	温めたりすることが合わなかった。 商品のバリエーションが多く、口に合う商品が何点かあった。 来てもらってアドバイスを受けても変わらないという気持ちが強かった。
入院した際に医師からバランスのとれた食事に変更するように言われたが、自分で作る調理は同じようなものが多かった。(その後、週 2 回、栄養改善配食サービスを利用することにしたが不十分であった。)	独居の女性。生活保護、団地 3 階に居住。歩行可能だが膝痛がありバギー使用。認知は軽度だが理解力が低い。	栄養補助食品のモニターとして登録してもらい、メーカーから定期的に試食品が届き、感想を提出してもらう。	手持ちの栄養補助食品の試供品を提供した。

⑨ 環境整備

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
以前から不動産会社よりゴミ屋敷で今後アパートの契約ができないと言われていた。訪問しても自宅に入れられず。たまたま地域のプロパンガス屋から、給湯器が壊れたので行ってみるとゴミ屋敷だったとの相談あり。給湯器修理するためにゴミを一掃する必要があるため地区ボランティアと清掃業者でゴミ撤去できた。	80才独居。息子はいるが音信不通。今の住まいに10年居住。飲酒してはつまみを作って独居生活を満喫していたが、飲酒が増え身の回りの整理整頓ができなくなりゴミ屋敷に発展。介護保険申請し要支援2で訪問型サービス導入し掃除支援をしている。	今までも二次予防事業で関わりがあったが自宅に入れてもらえなかった。今回給湯器修理の依頼というタイミングで事が進んだ。	地域のプロパンガス屋さんを巻き込み本人のニーズに合わせてゴミ屋敷が一掃でき、結果、今後更新せずにアパート引っ越すことになった。
買い物をして片づけられず、処分もできないことから大量なものやごみの中で生活することになり害虫や害獣の発生もみられた。エアコンもつかなくなり火災の危険あり。金銭管理も困難で様々な支払いの滞りが発生。	もともと家事能力が限定的な80歳代女性。要介護1、独居。	自立度の高い低所得者用の住まいとしてケアハウスや軽費老人ホーム入居が挙げられたが、市内には存在しない。低所得者用ビジネスもこのようなケースにおいては必要。	自宅の片づけに粗大ごみ撤去、回収業者を利用検討するも支払い能力なく断念。入居できる施設探しに有料老人ホーム紹介センターを使う。
家の庭が荒れ放題で隣家から伐採するようクレームがあったと相談があり、庭の状態を確認して一般の伐採業者に対応を依頼したが数台のトラックが必要となり高額の見積もりとなった。	精神疾患うつ病の独居高齢者で戸建てに居住。強いうつ病のため昼夜逆転。こだわりも強い。画家で繊細な作業が必要なため今は働いていない。身体的に動作緩慢で膝関節が悪いため屈むことができない。甲状腺機能障害もあり、体温調整が難しい。	大がかりな依頼に対しては、いろんな業者が関わると見積もり金額が膨れ上がるため、ワンストップの便利屋(何でも屋)サービスの活用により安価でできるアイデアを学んだ。	便利屋を紹介することで安価で依頼することができた。実際に便利屋が伐採する際には包括が立ち合い、きちんと伐採できたので、利用者に喜ばれた。
自宅内の環境整備、ゴミの分別ができない。	認知症の高齢者	今、出来ることを維持する(残存機能維持)ため、できないことへの補いの必要性を抽出する必要がある。アセスメント時に傾聴し、ニーズの背景を把握した上での支援が必要。	-

⑩ 地域交流

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
数人でも話ができる、交流の場を作りたい。	人が集まることが自粛になっており、話をする場が少ないので、人との交流、話をしていない人がいる。	話の場を作りたい人を中心に、少人数でテーマに沿って興味を持って話ができる場を打合せ中。	-
体操をする場が使えなくなった。	長年使用していた場所が使えなくなると自分たちでは探せない。	地域の中で何らかのつながりや支え合いが必要。	-
地域のサロンに参加できない。	軽度またはまだら様の認知症の方。	虚弱者も受け入れられる居場所に誘ったり声掛けをする人が必要。	-
単身世帯の方が居宅で気軽に話ができる存在が必要。	精神的に孤立感を深めている。	高齢者が参加できるボランティア活動のPR。	-
集合住宅に居住する高齢者の孤食解消。	独居、夫婦 2 人暮らし、家族と同居だが日中は独居。	敷地内にある集会所で食事をテーマにした集いの場を開催。	-
居場所、つながり。	日常生活は営んでいるが、人とのつながりを求めている。一人暮らし高齢者や、趣味の実現を求めている。	-	市内では居場所事業が現在 37 か所で実施されている。12 か所にボランティア活動の拠点があり、活動を通じてのつながり、サロン活動が行われている。
他者との交流を持ちたい。	要支援、事業対象、特定高齢者、もしくはそれに準ずる高齢者。	地域交流イベント等の開催。	空き店舗や古い民家などを活用した活動を社協が後押しして推進。
囲碁・将棋をしたい。	脳梗塞後遺症片麻痺。発症以前までは職域の交友関係のみで地域内の交友関係が希薄で趣味活動が出来ず楽しみを失っている。	家族介護者の負担になることを望まないことから、自身のみで通うことができる交流の場を紹介した。	公共交通機関を 1 人で利用できるように練習し、本人が安心・安全に通うことに自信がついたことから趣味活動の継続につながった。
他者との交流。	難聴だが本人補聴器利用拒否。高齢独居。戸建て。同居も希望せず。友人が次々と他界している。転倒のリスクがあり外出機会減少。	居場所の利用、1 日型通所介護の利用、身体の訪問介護にて買い物支援、補聴器の活用。	他市に住む家族とサービスの調整、安否確認に必要な環境整備。



趣味を継続し他者交流をしたかったが、それを行える所までの交通手段がなく諦めた。	他県から子どもの近くに転居。生け花や太極拳を趣味としてきたがそれができる場が近くにない。一番近くでも公共交通機関の利用が難しく継続を断念。転入地域では親族以外の他者との交流がない。	現住所から通いやすい活動の場をいくつか紹介し、興味が向くものがないかを確認した。	見学には行ったが気が向かず、自宅内での運動に取り組むことになった。
習い事やボランティアなど人の役に立ちたい。	サロンなど活発に参加している方。	もう一度地域のサロンや集いの場に参加し、協議体を覚えていただき地域と近い間柄にいることがまずは大事。一つ一つ声を聞いていく。	これから。
話し相手が欲しい。	独居。	アイボ。	-
他者との交流。	夫婦、親子などどちらかが他界したり施設入所するなどして突然独居となった場合。	仲間づくり、居場所づくり、心の支えへの支援。	-
コロナにより外出頻度や楽しみが減った。	団地に住む高齢者が地域活動に参加していたが、コロナにより活動が自粛され、外出頻度や楽しみが減った。	コロナ禍においてイベント等が中止になった障害者団体等に話をし、収入の応援ができればと考えた。	コロナ禍において外出頻度やイベントが減っている高齢者に対し、チェーン店のドラッグストアの軒先を借りてマルシェを実施。売り上げが減っている地域の障害者団体のパンや野菜などを販売。公園管理団体がちょっとした工作のブースを出店して行う。
今まで参加していた趣味活動(カラオケ、手芸、パソコン、麻雀等)を活かして集まる場がない。	隣近所なら行けるが、公民館や集いの場まで歩いて行けない。公共交通機関もない。	サークル活動等への送迎	-

お茶を一緒に飲んで、話して欲しい。	日常生活にはほとんど課題がない。子どもは遠方または頻回に来訪することはできない。近隣または交通の便が良い場所（買い物、趣味の集まり等）は、行くことができる。屋内での動きに制限はなく、体操や趣味活動もできる。	草刈りの有償ボランティアを依頼した際に、作業中や終了後に延長で話し相手になってもらっている。	-
-------------------	---	--	---

⑪ 日常生活

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
買い物支援 移動支援 ゴミ出し 家事援助 掃除等。	総合事業対象者、要支援・要介護・一般高齢者。	助け合い活動創出、サポーター養成、市場サービス活用。	買い物支援（移動販売）、商工会とのコラボ、地域支え合いサポーター養成、有償ボランティア、助け合い活動創出。
入院時等の動物（ペット）の世話をしてくれる存在が必要。	心身状態の影響で入院するおそれがある。	-	-
<ul style="list-style-type: none"> <li>・料金滞納のため水が出ない。</li> <li>→公共料金が引き落とされていた通帳をなくしたままほったらかしだった。水道局へ行き事情を説明し支払いをして開栓してもらった。</li> <li>・つまづくことが多く、外出ができていないため、買い物に行けず食べるものがない。</li> <li>→最初にお試し利用があり、買い物代行もできる配食サービスを紹介する。</li> <li>・通帳が見つからず、記帳ができていない。</li> <li>→本人を銀行に連れていき通帳の再発行を依頼する。</li> </ul>	持ち家だが、かなり古い。新聞紙等を重ねて置いていて自宅内で話ができる場所がない(ゴミ屋敷)。本人も人を入れたくないので、顔が見える程度しかドアを開けない。豆電球が付いているだけで、安否確認できないくらい暗い。呼びかけると3回くらい呼んでやっと出てくる。夫が他界(10年以上前)し独居。子供なし。夫の口座から公共料金が引き落としされていたが残金がなくなり納付書での支払いとなっている。爪は伸びてとがっている。髪はザンバラ。風呂がないので湯沸かし器で湯を沸かして身体を拭いていた。洗濯物を干しているのを誰も見たこ	信頼関係構築のために、事業所の休み以外は毎日の訪問とした。季節が夏だったこともあり、うちわやアイスノン、経口補水液（OS1）などを持参したり、都度、体調を伺い血圧測定を実施。次第に本人から話をするようになり、家の中には入れないが、玄関から門まで出てくるようになった。	庭木が育ちすぎて道路に覆いかぶさり、電線にもかかっていると思われたので、電力会社に相談し調査に来ていただき、線にかかっている部分の枝や樹は取り除いてもらったが、結局電力会社ではなく NTT の線と判明。NTT に問い合わせたところケーブルに保護用カバーをかけることとなった。道路にはみ出た樹木の伐採は業者に依頼することとなった。

	とがない。着ている服もいつも同じ。 テレビはなくラジオを聞いて過ごしていた。		
<p>コロナ感染症流行で、マスクが手に入らない。 店頭でマスクが品薄状態だった。インターネットでは販売がみられるようになっていた時期だったが、高齢者に限らず、みんな困っていた。</p>	<p>マスクが購入できない方。ネット販売に慣れていない高齢者。</p>	<p>商店会で入手し、販売してもらおう。</p>	<p>商店会長と地域の現状を情報交換し、商店会として取り組めることを検討してもらった。</p>
		<p>ドラッグストアで入手した時に事前に発信してもらおう。</p>	<p>商店会にある若者向けのハンカチ屋に、布があるため、マスクを作って販売してもらった。</p>
		<p>簡単ハンカチマスクの作り方をチラシにして、自分たちで作れるようにPRする。</p>	<p>また、飲食店では入手したマスクの販売をはじめた。</p>
		-	<p>その他、高齢者も外出外食できない時期だったこともあり、地域のカフェに協力を依頼し、商店会のお惣菜セットを急遽販売してもらった。</p>
<p>認知症の人が道に迷っていた際に声をかけ「郵便局の場所がわからない」と言われたことがあり、この街の暮らしにくさのひとつに、行きたいところにたどり着けないこともあるのかと感じた。</p>	<p>認知症のある方、この土地になじみの薄い方。</p>	<p>郵便局がわからない、と言われたが、実際は目の前に郵便局があった。なぜわからなかったのか、その人に聞くと「いつもと違う道から来てしまって、見え方が違った」とのことだった。そのため、実際にいつも来る道と、この日歩いた道から見える景色を動画に撮ってみた。</p>	<p>動画を撮ってみて、本人視点で検証。いつもの道からは〒マークやポストが見え、窓口も目に入るので郵便局と認識できるが、わからなかったという道から見ると、郵便局とわかるマーク等が見えず、大きな建物があるということしかわからない。郵便局員にも動画を見てもらい経緯を説明。「これは確かにわかりにくいですね。認知症の人の視点から見ると、こんなにわかりづらい建物だったと気づきました。大きな〒マーク設置を検討します」と話して実現してくれた。</p>

⑫ 見守り

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
民生委員より本人安否の確認ができないと相談を受ける。	独居。買い物など室外の移動は困難。室内は何とか移動しているが、弁当の空き箱やペットボトルなどが多数置かれており、定期的なゴミ出しが行われていない。他者との関わりやサービス利用は望まない。これまで本人との面接時に必要と思われるサービスを提案するも拒否。携帯電話へ連絡しても出ない。飲食に関する物はコンビニの宅配サービスを利用。	地域ケア会議を開催。安否確認の方法として、利用しているコンビニ業者に、本人からの宅配依頼がない場合、関係者に連絡をもらうようにすれば、本人の SOS 状態が把握できるのでないかとアイデアが出る。	コンビニ業者の地域ケア会議の出席は叶わなかったが、本人の安否確認、SOS 情報把握のため、本人からの宅配依頼がない場合の関係者への連絡を提案、了承していただく。地域ケア会議において、本人とコンビニ業者との関係性の太さを再確認しつつ、宅配依頼がない場合の関係者への連絡を実施することとなる。そのための連絡票を作成、後日、コンビニ業者にも手渡す。
一人暮らしで親族は遠方に在住。忘れっぽくなり、頻回に通帳やカードの再発行に金融機関に来所。自力での権利行使が困難。知人と旅行に行ったり、親族宅へ泊りに行ったりするが、新聞や牛乳・配食を中止することを忘れ、度々騒ぎになる。	認知症で一人暮らし。親族とも疎遠、または実質的な支援や介入が困難。	権利擁護事業へ繋ぐ。 安否確認のためのサービスを利用する。	-
見守り。	独居。家族は遠方に居住。	セコム。	-
急に支援が必要になった時に駆けつけてもらえるサービス。	一人暮らしで近隣に頼れる人がいない。	以下のようなボランティアが待機しているボランティアセンター。 ・急な訪問以来にも対応が可能な方。 ・認知症の方への対応について学んだ方。	-

⑬ 生活不活発

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
地域で開催している介護予防教室を通じて代理体験の場の紹介と、専門職との関わりのなかで成功体験を経験することで、再度、家での役割を再構築できたケース。	複数回の転倒経験から、自己効力感が低下し、生活が不活発な状況になっている高齢者。	家族より、転倒の原因が「加齢によるもの」と一方的に判断されており、これ以上転倒しないことを優先した生活環境となっていた結果、本人の役割が大きく減少。専門職と連動した家族へのアプローチも必要と考えた。	介護保険サービスでの支援も検討されたが自立度も高く、環境因子による意欲の低下が確認されたため、本人の知人が参加している介護予防教室を案内した。また、圏域内の理学療法士やデイサービスに対して「転倒予防」をテーマとした教室の開催を依頼し個別にアドバイスをを行うことができた。

⑭ 就労

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
認知症がある高齢者の生活(経済的課題) 支援。	認知症高齢者が生活のために「仕事がないか？」と就労を希望する。	-	その人の残存能力を生かして地域で役割を持ちながら、本人らしく生活を続けられるようになった。具体的には、商店の民間の給食センターで弁当を詰める仕事(週1回、1時間)のマッチング支援を行った。

⑮ 運動

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
比較的元気な高齢者のリハビリの場。	日常生活は自立しているが、筋力維持のために医療面でのリハビリが必要だが、介護保険サービスの対象にはならない高齢者。	鍼灸院の中で行われている、鍼灸師による体操に促したり、治療の一環として訪問マッサージを案内。	-
パーソナルトレーニングジム。	生活水準が高く、より専門的なサービスを希望する方。	市場サービスについて特定な場所の案内はできない立場であるため、トレーニングジムが記載されたチラシを配布した。	-

## ⑩ 住まい

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
経済状況や身体状況に合う住まいが見つけれない。	生保の対象外。立ち退きなどで引っ越しが必要。階段を上ることが困難になった。	-	-

## ⑪ 防災

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
畑作業を代行するサービスや家屋の防災対策を行うサービスを利用したい。	88歳。夫婦2人暮らし。円背、肩関節の可動域制限がある。認知機能は年相応。	-	-
災害時のサービス(災害時伝言ダイヤルや伝言板等)の使い方を教えて欲しい。	独居または夫婦二人暮らし。日常生活にはほとんど課題がない。屋外での活動は転倒リスクが高い。子どもは遠方または頻回に来訪することはできない。	-	-

## ⑫ ICT

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
コロナの影響で関わりが減ってしまい、スマートフォンを覚えたい。	家族が皆SNSやラインを使用しているがうまく使えない。	スマートフォン教室の開催。	-
LINEやメールを教えて欲しい。	独居または夫婦二人暮らし。日常生活にはほとんど課題がない。子どもは遠方または頻回に来訪することはできない。	フリーランスでコミュニティ紙の発行等をしている方や個人で高齢者へのネット媒体の支援企業を起業している方に講師を依頼して講座を開いた。望む方にはアフターフォローとして個別に支援継続をしている。	-

⑱ 相談

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
新設するドラッグストアから地域の方々が利用できる交流スペースの活用に関して相談があり、イベント等の会議を行った。	近隣の高齢者が集える場の提供や買い物に来た際に介護などの相談ができる事など想定しながら協議を重ねた。	まずは、交流スペースを知っていただくために、地域の高齢者を対象に健康診断を行ったり、民生児童委員の定例会の会場を提供していただいた。その後のイベントとしては、地域のNPOで育てた野菜の即売会や健康に関する講座等も開催した。	-

⑳ 地域活動

生活支援ニーズの概要	高齢者の状態像	解決に向けたアイデア	解決に向けた取組
個別ではなく広域になるが、高齢化した地域の自治会・町内会運営	75歳以上、80歳代が多い地区	地域の企業に自治会活動やその運営を委託できないか？	-

(2) 利用者に対し、地域包括支援センターが、生活支援としてどのような市場サービスをどのような場合に提案しているか【包括問 1⑤-2】

① スポーツジム

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
スポーツジム	<p>運動機能向上が目的だがデイサービスでは本人の要望に応えきれない。</p> <p>運動の希望がある自分で外出ができる負担割合の高い利用者。 一人暮らし等で自宅で入浴する事が困難な方。</p> <p>活動・交流の場所、フレイル予防など。</p> <p>介護保険や総合事業には非該当の方から、運動、介護予防をしたいといった相談があった。</p> <p>要介護から要支援 1 の認定となり、通所型サービスの利用回数が少なくなってしまった。</p> <p>体が弱って以前に通っていたジムに通えなくなった利用者が再びジムに通えることを目標に介護予防に取り組む。</p> <p>介護保険の通所介護ではなく、月額で毎日通える。 送迎付き。 決められた回しか利用できない事で利用意向が高まる。</p> <p>運動や活動量の確保の必要がある高齢者で、地域支援事業の対象にならない方や地域支援事業卒業後の継続活動の場として。</p> <p>活動的な男性であったが、入院を機に体力低下し、要介護状態となった。目標に取り組みできる方であり、通所サービスの卒業に向けて提案するようにしている。</p> <p>継続して意欲的に運動がしたいがそこまでの移動手段が困難な方に送迎サービスのあるジムを紹介。総合事業卒業後紹介しているケースもある。</p>
パーソナルトレーニング	個人にあったトレーニングメニューを希望。
ヨガ教室	多くの方が通う教室で身体を動かし、交流の場を持つ。
総合体育館での水泳教室	既存のサービスと本人の価値観が一致しない。



② スーパー・コンビニエンスストア

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
近所のスーパー・コンビニエンスストア	下肢筋力低下し、同居家族も外出機会が減少している方への外出機会を増やすため。
	顔馴染みの近隣の方が集まることで他者とつながりたい。
	実際に自分で商品を見ながら確認する事で、日課を設けることや食欲の向上を図る。
	自分自身で好きな物を購入したい方の目標として設定。 参加制約が見受けられるケースにおいて短期目標の設定が漠然としている場合に具体的な目標値として。
スーパーの商品配達サービス	買物には行きたい・行かれるので続けたいが、重い物は持って帰れない 介護保険内では時間が限られるため
スーパーの移動販売	買い物には出かけられないが、食材があれば調理ができるため、自立支援につながる。
ネットスーパー (電話&通信が可能)	電話で商品を言えば通じるので、ネットに疎い高齢者でも注文が可能。
なじみの店や通っていた場所、イートインスペース	外出を検討する場合などや、“ここまで歩いてきて休む”という目標にする場合など。また、店員とも顔なじみになり声を掛けてもらえる。

③ 配食サービス

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
配食サービス	怪我等で一時的に食事の準備が難しい。 独居等で栄養バランスを配慮した方がいい。 安否確認を兼ねた訪問が望ましい。
	糖尿病など、疾病の再発を防止する場合。

④ 移動販売

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
移動販売車	自分自身で食材などを選びたいが、移動距離のある場所まで行くことができない。荷物を持って帰ることができない。

⑤ 町の商店・デパート・娯楽施設

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
町の商店	大型店舗ではなく近隣の町中であって、顔が分かって継続的に利用できるように、様々な要望に応じてくれるようなお店の紹介。
楽器店	音楽合唱教室。歌える場に行きたいが、近所の人に関係なく、気遣いしなくてもいいところ。
電気店	割高ではあるが、量販店まで買いに行くのが難しい方。
ゴルフ練習場	近所で運動できる所を希望されたとき。
小売りしている魚屋	料理が得意だった方。スーパーの切り身ではだめ、魚屋に行って自分の目で見て買い物したい。
車のディーラー	体操教室。短期集中C型終了前に、市内の参加できるところの例として。
映画館	本人の楽しみ。他者との外出の機会。
百貨店	「以前のように買い物に行きたい」と思うことで、その目標に伴い、運動量の増加や生活リズムが整うことを期待する。

⑥ 生活衛生

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
スーパー銭湯	「(元気な頃よく出掛けていた)夫婦で近隣の温泉に行きたい」と思うことで、本人の生きがいを引き出す。
	通いたい自分では現地まで通えない時。 友人も利用しており、社交場になっている。
	認知症当事者や家族等のつどいを場所を借りて実施。色々な人と交流したい。自分でお風呂に入りたい。
送迎付きの美容院	自分では行けないが出張理美容サービスの対象にはならない人へ提案。
	活動性を再獲得してほしい時。 おしゃれをしたいがそこまで行く移動手段がない
	身なりを気にして、外出に躊躇している方への提案。
訪問理美容	ひとりで外出が出来ない方。
	気持ちが沈んでいるときに、整容を勧めることで気持ちが変わり、日常生活に活気を持って欲しい時に提案。
フットケアサロン(訪問、店舗)	巻き爪等のトラブルがありケアを希望された場合。
訪問美容(出張ネイル)	「化粧をしたりして、いくつになってもきれいでいたい」との本人の希望あり。本人の意欲向上と楽しみにつながる。

⑦ 飲食店関係

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
カフェ	高齢者が集まるカフェを紹介
	オレンジカフェも開いており、高齢者にも利用しやすい
	近隣で有名なコーヒー好きが集まることで他者をつながりたい。
	昔ながらの友人と会話を楽しむスペースとして提案。
居酒屋	疾病前は、居酒屋に集まる仲間と毎晩、晩酌をしていたケース。再度、店に行くための提案。
飲食店(定食屋など)、料理教室	栄養や調理メニューに悩んでいる場合など。
外食産業	本人の楽しみ。他者との外出の機会。
カラオケスナック	自分で通えてカラオケが好き、負担割合の高い利用者。

⑧ 薬局・医院

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
整骨院	高齢者向けの運動講座を実施。自力で通える方に、運動の出来る場の紹介。
ドラッグストア	体操教室・健康相談を実施。運動や健康づくりに関心のある方、または必要な方に提案。
医療機関内の足湯・市場	気分転換に近場で出かけた。

⑨ 住宅系サービス

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
UR 都市機構 管理事務所	UR に居住する独居・高齢者のみ世帯に孤立防止も含めて管理事務所から定期的に電話で安否確認。かかわりが薄く孤立しやすい方に提案。
空家の片付け	入院中の元居住者に住民からの苦情があった。
大がかりな清掃・粗大ごみの処分	家具家財の処分・ゴミ屋敷化している利用者宅の清掃・ゴミ出し支援。費用負担額が大きいので見積もりしたうえで決められるケースがほとんど。

⑩ 地域のサロン・体操教室

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
集える場所 (地域サロン, 高齢者クラブ等)	身体機能を維持したい。引き籠りにならないため。
	近隣の方等との交流の場に出向くことで、楽しみのある生活を過ごしたい。
	他者との交流により、生活リズムの維持向上を図りたい。
	生きがいをづくりをはじめとした精神機能の維持向上を図りたい。
	引っ越してきたばかり、何か始めたい、通所系サービスだけではなく地域の集まりに参加したい、1人暮らしになった等相談がある時に提案。
ラジオ体操	自信の健康の保持増進と近隣の方等とのコミュニケーションを図る。
介護予防教室や独自の体操教室	通所型・短期集中サービス卒業見込み者に対して提案することが多い。
	現在の身体機能を維持し自立した生活を継続していきたい。
認知症と転倒予防教室	専門職による介護予防教室。外出の機会が少ない場合や、運動をしたいがスポーツジムまで行かれない場合、人との交流が必要な場合、など。
ポールウォーク教室	歩行が安定していて運動の機会を増やしたい場合、人との交流が必要な場合など。

⑪ 趣味の教室

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
カルチャーセンター	趣味の活動をすることで社会参加の機会を確保し、友人をつくるきっかけにもなることを期待する。
	遠方まで通っていたが継続困難になったため市内や交通の便の良い場所で同様の活動が続けられるように
大学の文化講座	高齢者が集まる所には行きたくないが、文化的なことに興味がある。
公民館、長寿センターの講座	通所系サービス利用までは行かないが引っ越してきたばかり、何か始めたい。
	趣味のサークルに参加し活動の範囲を広げたい。
	高齢のため引きこもりがちな生活をしているが、以前はいろいろな趣味活動をしていた人の社会参加の場として提案。
囲碁、将棋、麻雀教室	特に生活不活発が予測される男性利用者に対して提案。
	自力で通える方に、活動性アップと他者の交流の資源として提案。
	コロナにより余暇の時間が減少してしまった方への目標の再確認。
	デイサービスのレベルではなく、もう少し本格的にできそうな方。

趣味サークル、市民センターの展示会 (書道、絵手紙、カラオケなど)	興味のある教室が地域の通いの場で開催されていない。
	趣味の再開、作品作りの目標、他者との交流、閉じこもり予防。
	通所型サービス利用し、状態維持や向上を果たした後の目標設定として考える。
	もともと利用されている。
パソコン教室	社会参加や交流の場に参加しにくい男性高齢者もパソコンを使って成果物をつくるような活動に参加することは納得するため。居場所として提案。

⑫ 医療・介護系サービス

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
補聴器	高額商品のレンタルや自宅へ訪問もしてもらえる。
介護保険外の福祉用具	自立した生活継続のために必要とする場合。
生活支援、家事代行サービス	介護保険に該当しないサービスの支援で、その人らしい生活を維持していくことができる。
有料老人ホームの体験入所	ショートステイの代わりとして。また、今後の施設利用のイメージづくり。
リハビリ	健康意識が高く、より運動に取り組みたいと考えている方。
社協で行っているほほえみ訪問	ボランティア登録している住民による訪問での声掛けサービス。安否確認が必要で、人との交流を求めている方に紹介している。

⑬ 就労・ボランティア

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
シルバー人材センター、有償ボランティア、職業安定所	本人の得意項目を活かして生きがいになる場所や仕事の紹介。
デイサービスで行っているボランティア	社会的役割を必要としている方で、そのデイサービスをかつてまたは現に利用していた方に対し、デイサービスと相談の上、紹介している。
ボランティアの活動場所	本人の活動やできることを活かしてもらうために活動できそうな場所を提案して活動意欲につなげている

⑭ その他

市場サービスの名称・種類等	どのような場合に提案するか
農園	農作業をやってみたいという希望がある。
観光地など	1年後の目標として本人の短期目標達成に対するモチベーションを維持するため。

(3) 生活支援コーディネーターが収集した市場サービスの名称・種類とその利用方法 【SC問2③】

① 運動

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
フィットネスクラブ、スポーツジム、カーブス、健康教室	高齢者に特化した講座などの選択肢増加。
	インストラクターによる筋力向上トレーニング。
	運動や活動量の確保の必要性がある高齢者で地域支援事業の対象外の方や地域支援事業卒業後の継続活動の場として提案。
	介護予防・健康維持。
銭湯	銭湯で実施する体操に参加すると代金が無料になる。高齢者の健康増進をはかる。
薬局	薬局内での体操の実施。買い物のついでに体操し、健康を維持。栄養士や薬剤師が常駐しているため健康相談にも応じてもらえる。
	地域に介護予防に効果がある運動の機会がないため、薬局内で体操を実施。
楽器屋	カラオケ教室の実施。発声することで嚥下機能訓練になる。
健康づくりアプリ	GPS デバイスを活用した歩数カウントによる健康ポイントの付与。

② 健康・栄養

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
定期的な宅配・配送サービス(新聞、弁当、生協、乳酸飲料等)	栄養摂取状況に課題がある場合の支援。
民間の栄養士	訪問サービス。
服薬・健康に関する専門相談	サロン等集いの場での出張相談会。
訪問看護事業所	地域の方が気軽に相談に来られる場としてスペースを活用。
薬局	訪問サービス。

③ 社会参加

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
銭湯	認知症でも安心して入浴を楽しめる環境整備がされており、店員も認知症に関する教育を受けている。
コンビニエンスストア	介護予防や交流の場づくり。
喫茶店	認知症カフェを開催し、相談や交流したい人の場づくり。 ふらっと立ち寄って世間話をする事で孤独感を解消。
地域の飲食店	担い手養成講座の講師依頼（コーヒー講座など）。
酒屋	夕方になると近所の人が集まり、お酒を飲んで会話を楽しみ、孤独感を解消。
たまごや	集える場所が少ない地域において気軽におしゃべりを楽しむことが出来る場をたまごやが提供。喫茶機能もあり、包括や住民が定期的にサロンを実施。
移動販売、移動スーパー	住民交流の場。
薬局	薬局内での認知症カフェの開催。
医療生協	防災フェス、多世代交流のイベントの実施。苗植え体験等を出張で実施。
寺	観音堂を利用して麻雀サロン等の開催。
パソコン教室	社会参加や交流の場に参加しにくい男性高齢者の居場所づくり。
JA	互助組織を組成し、ミニデイを開催。栄養バランスの整った食事を提供。カラオケ機材もある。スタッフは利用者の話をゆっくり聞き、気になる方がいれば市や社協に情報提供。
NPO やボランティアが運営するカフェ	人との交流を求めているが行く場所がない高齢者の居場所。
民間賃貸住宅	集いの場として集会所の貸し出し。
老人ホーム、高齢者住宅	集いの場として食堂の貸し出し。
英会話教室	集いの場として教室の貸し出し。
訪問看護事業所	集いの場として事業所の一部を活用。
便利業	生活支援。
携帯電話業者	スマホ講座の実施。



④ 見守り

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
定期的な宅配・配送サービス(新聞、弁当、生協、乳酸飲料等)	見守り、安否確認。
スーパーや生協の荷物の配達	見守り、安否確認。
銭湯	認知症の疑いがある方を包括に連絡。 見守りの協力。
コンビニエンスストア	近所の認知症の方が来店した場合のフォロー、必要時の通報。 日頃の見守り。
郵便局	市と認知症サポートの協定を締結。認知症の疑いがある方の情報を連絡。郵便局員が認知症に関する教育を受けているため丁寧に説明し、安心して利用できる。 見守りサービスの利用。年金支給日に包括の出張相談を実施。 見守り訪問サービス、見守り電話サービス。
電気屋	見守りの協力。
タクシー	見守りや介護予防の視点を兼ねた、地域活動を連動する仕組みづくりを検討中。
喫茶店	常連客のゆるい見守り。気づいたことがあれば市や社協に連絡。
時計店	見守りの協力。
青果店	見守りの協力。
薬局	見守りの協力。
UR	独居高齢者、高齢夫婦等で入居している方の安否確認。
警備会社	安否確認サービス。
不動産屋	見守りの協力。
金融機関	見守りの協力。
定期的な宅配・配送サービス(新聞、弁当、生協、乳酸飲料等)	認知症の疑いのある方を包括やケアマネに連絡。

⑤ 生活支援

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
定期的な宅配・配送サービス(新聞、弁当、生協、乳酸飲料等)	調理・買い物が困難な方への支援。 計画的に生活費を使う必要がある場合の支援。
スーパーや生協の荷物の配達	買い物した荷物が重くて持ち帰れない方への配達サービス。
福祉用具販売店	新商品の案内。 出張による福祉用具の紹介や体験会の実施。 店舗には商品が展示されており、実際に触れて体験することが出来る。 一過的な機能低下や体力低下のため ADL や IADL に福祉用具が必要な場合。
電気屋	電球交換、家電修理の対応。 購入者だけでなく近隣の方からの依頼への対応。
コンビニエンスストア	移動販売による買い物艱難者への生活支援。
移動販売、移動スーパー	買い物弱者への支援。
地域の飲食店	出前配達。
家事代行業	日常の家事を自分で行うのが困難な方への支援。
生活支援サービス事業所	ケアマネと連携し、介護保険外の生活支援サービス提供。
コインランドリー	洗濯機が壊れた時に利用。
医療生協	生活の中のちょっとした困りごとを地域で助け合う仕組みづくり。
有償生活支援(社協・シルバー人材センター含む)	生活の中のちょっとした困りごとを有償で助け合う。
ショッピングセンター	福祉用具の販売。
タクシー	駐車場を活用し、お弁当を販売。近隣にスーパーがなく、日中1人で過ごす高齢者への支援。
家事代行サービス	公的サービスの家事支援に支援内容が適応しないときに利用。 家族がいるが家事支援を必要とする場合に利用。

⑥ 移動支援

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
銭湯	移動手段がなく外出の機会が減っている高齢者に対し、市外の温泉施設まで無料送迎。
介護タクシー、ハンディキャブ	通常のタクシーを利用できない方への支援。
タクシー	移動支援。
医療機関	通院手段がなく医療受診が出来ていない高齢者への送迎サービス。 通院の頻度が高い高齢者へのバスによる送迎サービス。
バス会社	路線バスでは通らないルートの巡回バス。100円で乗ることができ、高齢者の移動手段となっている。
福祉ムーバー	乗り合い送迎車利用による買い物、外出支援。

⑦ 住まい

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
電気屋	住環境の整備。
不動産屋	高齢者の住み替え支援。
工務店	高齢者の住環境の整備。

⑧ その他

サービスの名称・種類等	どのような利用を想定しているか
葬儀場	終活に関するイベントを実施。車いすがあり利用可能。
はちおうじ人生100年サポート 企業登録制度(令和2年新規業)	<a href="https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/004/006/p027166.html">https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/welfare/004/006/p027166.html</a>

(4) 高齢者自身や家族が市場サービスを活用することで、暮らしの維持や支援を行っている好事例【包括-問1⑨、SC-問1④】

分類	事例
飲食店	喫茶店でモーニングを活用される方が多い。喫茶店に行けば、馴染みの常連客がいて、馴染みの店主との交流がある。店主が何か変化を感じると市や社協に相談をもらう仕組みがある。
	独居の認知症高齢者で、一つのお店（中華料理店）で同じメニュー（チャーハン）しか注文できなくなっていた。店主が気を利かせて栄養バランスも考え、毎日メニューを変えて、かつ、注文から時間をかけると本人が忘れてしまうため、他の客に出そうと作っていたものを先回りして届けてくれた。
	昔から地域で営んでいる喫茶店に常連が集まり、会話の中で本人及び家族が何か困っているときには、経営者や常連が包括に相談するように促している。
	近所の喫茶店に通う方が体調を崩した際、店主が食事の出前を臨時に行ってくれている。
	週1回程度、昼カラオケに通って好きな歌を歌ったり、知人と話をするのがとても楽しみで生きがいとなって明るく暮らしている。
	路線バスがない地域で料亭の送迎バスが最寄りの駅まで地域住民の送迎をしてくれている。
	妻が亡くなって以降、食事は食べられれば良いと思っていた独居男性。体調不良による体重減を機に、栄養指導に入った栄養士の話に興味を持つ。料理の本を見たが、イメージが湧かず困っている、ということで駅周辺の定食屋のリサーチを提案。定期的に出かけることや、店探しなど楽しみとしても定着。体力も戻り、地域カフェを開くなど活躍している。
個人商店	商店による商品の配達。
	八百屋さん独自の宅配や宅配、配食サービスで自宅に配送されることが見守りや安否確認となっている。
	地域の商店街で簡単なボランティアやアルバイトをすることで、生活に張り合いをもたせる。
	個人商店で全員に対応はできないが、個別に配達もしてくれることで馴染みの関係を保ちつつ買い物ができている。
	空きスペースを提供してくれることで、会場がなくて活動がしにくい場所でも活動ができるようになっている。
	地域の店舗等が見守りの協力をしてくれる。高齢者の様子がおかしい時に連絡をもらうなどの連携ができている。
	地域の商店に椅子が置いてあり、買い物や休憩している高齢者の見守りをしてきている。そこで得た情報を定期的に報告してくれる。
	クリーニング店に勤務していたが、高齢となり退職。外出の機会を作るため、ボランティアで週2回そのクリーニング店の御用聞きをして周り、生きがいとなっている。 独居の方が冬になると灯油の無料配達サービスを受け、購入している。

	介護サービスでは電球の交換ができず、街の電気屋やボランティアが電球の交換をしている。
地域企業	地域企業が福祉施設の協力を得て週2回安否確認を含めた配食サービスを提供している。
電力会社	安否確認を希望する家族がいたが、自治体が行っているサービスでは満足できなかった。関電が行っている安否確認サービスを提案し、遠方に住んでいる家族の安心につながった。
製作所	製作所で、地域向けに定期的に無料の作品展が行われており、近隣の施設等見学に行っている。
機器メーカー	高齢者一人暮らし。遠方に家族が住んでいるが、見守りカメラを活用することにより、本人の安全確保、安否確認を行うことができる。
運送業者	ヤマト運輸株式会社 生活支援、移送支援、介護予防教室など（ネコサポステーション）
携帯電話会社	携帯会社が高齢者の孤立を考えスマートフォン教室を無料で行っている
民間企業	(株) マッキャンヘルスケアワールドワイドジャパン AI（電話）を活用した認知症の早期発見
	民間業者が住民が集える場を提供し、スマホ教室やヨガ教室などの講座を無料で行っている
	スーパーのフリースペースが、地域住民の交流の場となっている。
	生活協同組合の生活支援、通院支援。
	肉魚など生鮮食品は自分で近くの商店街に行き持てる範囲で購入し、トイレトペーパーなどかさばるもの、米や調味料など重いものはスーパーの配達を利用し生活必需品を確保できている。
	当日宅配のスーパーを利用して、午前中にスーパーまで出かけ、自分で選んだ食材など持てるものは自分で持ち帰り、重たいものやかさばる物は当日午後自宅へ配達してくれるサービス。
	買い物には行けるが、荷物を持って帰ってこないことが多い。買い物の配達をしてもらえることで、訪問介護のサービスを導入せずに、できることをできる限り行うために買い物の往復を継続することができる。その方の介護予防や重度化予防にも繋がっている。
	スーパーの喫茶コーナーで地域住民と交流する。
セルフスーパーで定期購入をしている独居・高齢者世帯の利用者に対して生活必需品（トイレトペーパー、洗剤、食材等）配達サービスを実施。	
ネットスーパー	宅配は生鮮食品（特に魚や肉）が不可の場合も多いので、遠方にいる両親のために、生鮮食品も購入できるネットスーパーを子ども世代がインターネットから頼んでいる。

	独居の方で、定期的に娘と一緒にネットスーパーを利用している。娘の家に届いたものを分配し持参することで見守りになっている。
スーパー、金融機関	直接的ではないが、スーパーマーケットや金融関係で認知症サポーターの養成講座を受講している。
食品会社	毎食家族がミキサー食を作っていたが、介護負担が大きく疲弊していた。キューピーなどが製造している柔らか食を提案することで調理の心身的な負担から解放された。
ショッピングセンター	近隣にある大手ショッピングセンターでは、福祉用具の販売を行っている。また、従業員に対し認知症サポーター養成講座の受講を積極的に促しており、高齢者への理解を深めるための取り組みがされている。
コンビニエンスストア	定期的にコンビニへ通っていることで安否確認、金銭管理の確認が取れる。
	軽度認知症の独居高齢者で家族が県外で遠方。コンビニの電子マネーカードを本人に持たせ、家族が遠隔でチャージ。家族がネットスーパーで発注し、代金は本人が電子マネーで支払っている。
	配食サービスに対して拒否があるが自身で食事が作れない方が、近所のコンビニの配達サービスを利用することで、バラエティ豊かなメニューの中から選べる楽しみができ、食に対して意欲的になった。
	コンビニエンスストアの店員が利用者に電話し、定期的に配達サービスを行ってくれる。
	高齢者一人暮らし。徒歩で室外を移動する範囲が狭く、単独で買い物に行くことは困難な状態。そのため、近くのコンビニの宅配サービスを利用している。他者との交流を望まない性格で、民生委員も安否確認などに苦慮。地域ケア会議を通じて、あらためて高齢者本人とコンビニとの関係性の太さを再確認し、当センターからコンビニへ、本人の宅配依頼がない場合に連絡いただくよう依頼。実際に本人からの宅配依頼がなく、当センターへ連絡、結果的に本人の安否確認を行うことができ、コンビニとの連携を図ることができた。
	近隣のコンビニが、老人ホームへの出張販売会を実施しており、食品や日用生活品の販売を行っている。重い物やかさばるものなどを購入したい時などに重宝している。
スポーツクラブ	フィットネスクラブが地域の体操教室に健康に関する情報提供している
	高齢者自身がスポーツクラブを利用することにより、下肢筋力維持ができ、他者との交流もあることにより、いきいきと生活ができている。
	スポーツクラブを利用して運動と入浴をしている
	介護保険通所介護は自分の好きな曜日に好きな回数通えないため、送迎付きのスポーツジムに回数制限なく通い、筋力低下防止したいと意欲的に話す。
	歩行状態の衰えを訴える方へ、民間の体操教室への利用を促し継続利用した結果、機能回復した。
	介護保険のデイサービスを利用して体操などを続けているが、実際自立度が高い方が「一般のフィットネスクラブに通う」ことを目標にして卒業を目指している。
	プールに通いながら週1回通所介護利用し体力向上し介護保険未利用となる

宅配サービス	宅配サービスで配達時に安否確認を行ってくれる。
配食サービス	宅配弁当職員に、電気交換などをお願いしている。
	配食サービス業者が、配達のおいでに 5 分程度で行える生活支援サービスを無料で行ってくれる。
	配食サービス業者による配達時の安否確認。
	配食サービスを自費利用し、お弁当の配達時、見守りができている。不在だった時や弁当が残っている時には、関係者や家族に連絡がいく。
	配食サービスを利用する事により栄養バランスが取れた食事を摂取する事ができ、栄養の偏りが改善した。また配達を通して安否確認やちょっとした事(電球交換)の用事を頼めるようになった。
	配食サービス利用者。元々訪問介護サービス利用していたが、配食サービス事業所の横出しサービス（買い物や電球交換といった簡易な家事代行）により、市場サービスによる支援で生活を維持できた。
	生活困窮者に生活保護決定まで支払いを待ってくれる宅配弁当やフードドライブ、生活用品バンク（家電、家具、寝具、衣類の無償提供）の支援を受け生活を立て直す。
	アルコール依存で外部との接触が少ない独居高齢者の家に配食の訪問をしたがでてこず、前日の弁当が残っていたため地域包括支援センターに連絡。本人がベッド脇で瀕死の状態であったので救急搬送し一命を取り留めた。
移動販売	坂の勾配がきつく、歩いて買い物に行く事も辛い。平坦なら歩いて買い物に行けるとの話があったが、介護保険訪問介護で買い物支援を依頼しなくとも、移動販売車が自宅近くまで定期的に来てくれるため自分で見て買い物が出来、作る事も楽しく出来るようになった。
	階段や坂が多くバスを利用しないと買物へ出掛けられない地域で、足元が弱りなかなかバスで出かけることが難しい方々にとって、団地内に定期的に来る移動販売は助かっている。また、近所の方と顔を合わせたり、スタッフと顔なじみになりなど交流の機会にもなっている。
	独居の方が移動販売車で野菜などの食材を購入する際、近所の同じような方とシェアすることで、多品目の食材が購入できると工夫しながら暮らしている。
	スーパーが無くなり高齢者の買い物難民が出た地区に移動販売が来られるか確認、地区の福祉事業所にも場所の提供をしてもらえるか確認、双方でやり取りをしてもらい地区の人、事業所に通っている人、職員も買い物ができる。
乳酸飲料宅配	一人暮らしの高齢女性で最近認知機能の低下が若干見受けられたが、介護を受けるイメージの支援には抵抗を示すので、乳酸飲料の宅配を勧め利用するようになった。宅配の担当者が少ししゃべり相手になり、同時に安否確認を行ってくれるので、変化に早く気付くことができる。

	乳酸飲料販売員が独居で定期利用している人の家に行った時、応答がない事に不安を持ちあんしんセンターへ連絡。訪問し本人が家の中で動けなくなっている事を確認、救急搬送の手配。入院の後自宅に戻りサービスの利用ができています。
新聞配達店	新聞配達員が、配達時もしくは集金時に普段と違う様子に気づくと、在宅介護・地域包括支援センターに連絡を入れ、情報提供してくれる。 地域の新聞屋さんがワンコインでお助けサービスをやってくれているので、草むしりや電球の交換などちょっとしたことに対応してくれている。
清掃サービス	ダスキンなどの掃除サービスを利用することで、介護保険ではできない家族の掃除や大掃除などが出来た。
警備会社	セキュリティサービスを別居家族が高齢の両親に手配し、見守りに繋がっている。 警備会社のセキュリティサービスを利用され、安心して在宅生活が遅れている。電気の使いすぎでブレーカーが落ちたときにはかけつけてもらった。
郵便局 金融機関	圏域にある郵便局との関係性を築いており、郵便局利用者（高齢者）から金銭等で困っているとの相談を受けた郵便局長と本人が包括へ来所された。 郵便局や銀行と連携し、気になる高齢者が窓口に来た際に在支・包括へ情報提供してくれる。 独居の認知症高齢者、金融機関（信金系）での取引（引き出し）について。暗証番号を覚えていられないのでカードは使えず、窓口で手続きをしていた。毎回名前を書いたり、押印したりという手続きを金融機関のお客様係が丁寧にサポートしてくれていたため、かなりの長期間、地域生活が維持できた。 高齢者一人暮らし。徒歩で室外を移動する範囲が狭く、単独で買い物に行くことは困難な状態。生活費の引き落としにおいて金融機関に出向くことも同様な状態だが、信用金庫職員が定期的に訪問し、必要なお金を下ろして持ってきてくれることで、支障なく生活することができる。 趣味活動の作品を毎年展示スペースを借りて発表している。
病院	病院と地域住民と地域ケアプラザが協力してサロンを実施。見守りや医療や福祉の情報提供を行っている。 関節の痛みがあり頻回に通院が必要な時期に、経済的に余裕がなく支援者も遠方にしかいないため治療を断念していたが、送迎を無料で実施する診療所を紹介し治療に通えるようになった。 接骨院の先生が体操教室を行っていたがコロナで出来なくなった。YouTubeでの配信を依頼したら先生自らが積極的に動画をアップ・更新してくれている。
病院&商店	病院や商店等が協賛金を支払い、公共交通の停留所を設けている。公共交通が、より生活に密着したものとなっている。
訪問看護事業所	訪問看護事業所の一部を利用し、地域活動や、地域住民が立ち寄れる相談スペースを実施している。体操や制作活動などが行われており、地域住民にとって気軽に医療相談や悩み相談が出来る場となっている。



	訪問看護事業所で行われていた地域活動が、感染症流行により事業所内で活動が出来なくなって以降は、オンライン通信での活動も取り入れ、オンラインに関心がある方に対して、使い方や環境整備の方法について助言している。オンラインシステムでの繋がりづくりの普及も少しずつ進めている。
補聴器会社	中度の難聴の高齢者が家族に勧められて耳鼻科に受診した際、補聴器会社の方が無料レンタルを勧めて調整したり聞こえることの必要性を図で説明したりして丁寧にフォローされており、購入した結果、本人の聴力がアップし日常生活のコミュニケーションが拡大された。
薬局	サロン等集いの場でのドラッグストア薬剤師による服薬・健康相談等の活用 薬局が店舗の外に通りを歩く方が一休みできるよう長椅子を置いてくれている ドラッグストアの配達サービスを利用して、トイレトペーパーや洗剤などを届けてもらっている。 薬局で健康体操を実施。居場所として利用。
鍼灸・接骨院	鍼灸・整骨院の鍼灸師がサロン活動で体操指導している。専門的知識を活かした内容となっており、通っている方の筋力向上に効果が得られている。
訪問マッサージ、訪問鍼灸	訪問マッサージ、訪問鍼灸など痛みに対して直接アプローチしてもらうことで痛みが緩和し、外出に対する意欲が向上した。
OT	作業療法士による zoom でのリハビリ
フットケアサロン	フットケアサロンを利用して魚の目やタコ、巻き爪の治療を受けている。
銭湯	自宅では浴槽が深すぎて入浴できないがスーパー銭湯でなら入浴できることがわかり、以降、通っている。 身体の清潔保持、リフレッシュができ、本人も通うのを楽しみにしている。 食事も入浴もそこで済ませ、スタッフと顔なじみになっている。 浴場施設での介護予防教室
理美容	地域の理容室や、美容室が高齢者の変化に気づき、声掛けしてくれる。 髪を染めたい・パーマをかけたいという希望があり訪問美容サービスを利用。髪を明るく染めパーマをかけて、気持ちが軽くなり嬉しいと話された。 送迎のある美容院で定期的におしゃれが楽しめている。 自力で散髪に行くことができない方へ訪問理美容の情報提供を行い活用されており、清潔保持が出来ている。
福祉施設	有料老人ホームが地域活動のために食堂スペースを貸し出している。 老人福祉センターのお風呂を利用している。顔なじみの知人がいて、サロンスペースでお弁当を食べたり雑談を楽しんでいる。

福祉施設	<p>2号被保険者の方が、自身が病気になったことをコンプレックスに感じており、妄想がみられていた。サービスが必要な生活ではあるが、サービスを受けるだけでなく、現に通所しているデイサービスで麻雀のボランティアとして活動するようになり、今まであった妄想が軽減するとともに、妄想自体を気にしなくなり、明るくなった。</p> <p>かつて利用していたデイサービスでつながりのあった方との交流を継続するため、デイサービスを終了したのちにボランティアとして通うことで、交流が途切れず生活の質を維持することができた。</p>
保育施設	世代間交流を求めている保育施設が、サロンに通う高齢者との交流プログラムに参加したケース。
車のディーラー	地域の車の販売店が会社の会議室を貸与。コロナ禍で会場が利用できなくなっていた体操教室が再開できるようになった。
タクシー会社	観光と福祉を兼ねた電気タクシーの運行
介護タクシー	救急ではないが、自力で病院に行けない方へ、介護タクシーの利用を提案。 また、銀行までタクシーを利用することで本人による金銭管理が持続している。
UR	主に独居高齢世帯、高齢夫婦世帯を中心に見守りが行われている。また、生活支援アドバイザーという役割があり、高齢者の見守りを担当し、何かあれば自宅を訪問してくれる。その上で在支・包括への情報提供や、定期的な情報交換の場を設けて、気になる高齢者についての共有や対応協議を行って連携を取っている。
賃貸住宅	民間賃貸住宅の集会室を地域活動の会場として貸し出している。
互助組織	<p>少し虚弱化が心配される状況の高齢男性であるが、プライドが高く地域の集まり等には参加せず、活動の機会も減り、廃用性機能低下も進む可能性があったが、NPOの運営する高齢者が自由に利用できるカフェには喜んで通うようになった。カフェで開催する創作活動やワークショップも楽しみ、全体的な活力も上がり元気になった。</p> <p>サロン参加者が活動内で特技を活かし、講師として活躍している。活動に参加するだけでなく、役割を持って社会参加できる場となっている。</p> <p>移動支援として様々な施設が車両や運転手を出してくれて、地域住民だけではできない活動ができることで、新しい活動が生まれ、当事者も支援者側もモチベーションアップにつながっている。</p> <p>視力障害の独居の方の洗濯物干しや買い物、宅配注文の代筆などを地域住民がチームを組んでボランティアとして支援してくれた。おかげで街中で見かけたときに挨拶を交わすなど日常的な関わりが生まれている。</p> <p>認知症高齢者と精神疾患の息子（50歳代）の二人暮らし。長年当地で暮らしていて、近隣は幼なじみやその子などが多く住んでいる。本人一人で買い物に行ったり調理したりはできなくなりましたが、近隣の人がかかわるがわる訪れ、食材の買い出しや調理をして一緒に食べてくれていたおかげで、本人らの食生活は機能していました。</p>

	<p>数か月に1回の有償ボランティアによる草刈り支援を受けることで、自家の景観が保たれ、本人の精神状態も保たれている。（本人は近隣に迷惑をかけないように自身で草むしりしたいと思うが、身体の状態からできない状態）</p> <p>また、顔見知りの方が、毎回来ることで、他愛ない話をする時間が増えたり、草刈り以外の困りごとを相談する関係ができたりしている。さらに、少しでも一緒に活動しようという意欲が湧いている。</p>
	<p>冷蔵庫の中を管理できず、同じものを購入したり、腐らせてしまうことがある。有償ボランティアを別居家族が依頼し、定期的にボランティアさんが冷蔵庫の中を確認してくれる。加えて、買い物支援や話し相手、掃除、ごみ出し、草取りの支援を有償ボランティアで受けることができる。</p>
	<p>民生委員による見守り声かけ活動に対して、定期的に話し合いの場（地域ケア会議）をもつことで、介護保険や総合事業への理解、高齢者とのコミュニケーションのコツ、といったスキルが向上し、介護保険サービスありきではなく、市場サービスへの早期導入による支援につながっているケースがある。</p>
	<p>複数の利用者が、総合事業通所サービスの終了に当たり、地域の体操教室などの自主グループへ移行し、元気に活動することができている。</p>
	<p>一般介護予防教室を居場所の一つとしている</p>
生活支援サービス	<p>家事を担っていた妻がなくなった高齢男性が、買い物支援と家事代行サービスを利用して一人暮らしを継続できている。。</p> <p>学生を主なサービスの担い手としたワンコイン生活支援サービス。</p>
	<p>自費のヘルパーサービスを利用して本人と一緒に居住マンションのエントランスを掃除する。</p>
	<p>シルバー人材センターでの草刈り・草取り。網戸の張替えなど。</p>
	<p>シルバー人材センターでの仕事を通じて、認知症があっても役割を持って生活できる。</p>
	<p>総合事業の終了に当たり、担当者会議で本人・ケアマネジャー・地域包括支援センターで検討した結果、自費の生活援助サービスへの移行となり、暮らしを維持することができている。</p>
	<p>大掃除は介護保険でのサービスではなく自費サービス業者を利用。</p>
便利屋	<p>定期的に、便利屋さんへ庭木の剪定や片づけを依頼している。</p>
趣味の教室	<p>木目込人形の教室を自宅で実施している。近所の方が数人集まっておしゃべりしている。人との交流が本人の生きがいとなっている。</p>
	<p>俳句の趣味があり永年会社のサークルに参加し活動していた。定年後もサークルに通い交流の機会を持ちながら関係を築いてきた。しかし遠方まで通う事は出来なくなり、趣味の俳句も詠む意欲も低下していた。自宅近くの公民館サークルで俳句会があり紹介し参加。月1回の参加を楽しみに通われている。</p>
	<p>趣味の教室に通うことを目標にリハビリに取り組み、介護サービスから卒業</p>

	<p>80代男性。 病気、入院したことを機に、意欲低下がみられていた。 当初、ケアマネはデイサービスを提案していたが、見学をしたところ高齢女性が多く、参加したくないと拒否。引きこもるようになった。 その後、カルチャーセンターの麻雀教室を紹介、意欲が向上、歩いて通うようになった。</p>
	<p>転入者のため周囲に友人おらず、囲碁が好きとのことで、交流も生まれることを期待し囲碁サークルを紹介。一緒に食事へ行くなどの広がりがある。</p>
	<p>リウマチや原因不明の発熱・めまいなどありベッド上で過ごすことが多かった男性。以前の趣味だった油絵を“ケアマネが教えてもらう”という形で絵筆を持つところから再開。「いつか個展を」と描き溜めていた絵も出てきたため、ハガキサイズの作品を完成させて個展を開くことを目標に。妻や娘、仲間の協力もあり開催することができ、本人も車いすで会場へ挨拶に来ることができた。</p>
	<p>趣味の編み物を、駅前のショッピングモールの手芸店で行っている編み物教室に通うことで続けている。同居家族との折り合いがあまりよくないが、気分転換を図ることができている。</p>
市営の施設	<p>市営の運動施設や入浴施設を利用して運動と入浴をしている</p>
社協	<p>社会福祉協議会の行う有償家事援助「たすけあい有償活動」を利用していることにより、（家事援助を行う方は、年齢制限が無く、リタイアされたシニア層が多いため）、同世代の支援者が訪問してくれることが刺激となり、お元気になると言われる方が多い。</p>
大学	<p>近隣大学では、地域貢献活動に積極的に取り組んでおり、近隣地域での地域活動に学生が参加している。また、地域住民を交えて地域課題について話し合う取り組みもなされている。</p>
	<p>学校の空き教室や団地の空き店舗を活用した通いの場の開催 地域向け介護予防教室の開催（医療技術学部スポーツ医療学科）</p>
司法書士	<p>まちかどふくし相談所に行こうとされたが、コロナウィルス感染症の兼ね合いで中止していた。そのため包括へ遺言について相談しに来所される。結果として司法書士につながった。</p>
その他	<p>独居で認知症の中等度の方が、携帯電話を使用し昔から馴染みのある市場サービスを利用している。市場サービスの人同士でネットワークができ利用者の生活を支えていくための工夫を考えケアマネジャーに提案してくれている。</p>
	<p>感染症の流行により通いの場が開催出来ない状況下で、オンラインシステムを活用し、相互交流を図っている。</p>
	<p>自宅を車いすでも利用できるように改修・開放し、地域向けに食堂を低価格で提供している</p>
	<p>交通系ICカードを使用して、名鉄バスで買い物、受診</p>
	<p>家庭の悩みを抱える方に傾聴ボランティア</p>

令和 2 年度  
自治体と民間企業の協働による都市部における  
地域づくりの展開に向けた調査研究報告書

別冊資料編

令和 3 年 3 月

一般財団法人 長寿社会開発センター  
国際長寿センター  
〒105-8446 東京都港区西新橋 3-3-1  
KDX 西新橋ビル  
Tel.03-5470-6767 Fax.03-5470-6763  
禁無断転載